

平成25年10月30日
北海道電力株式会社

生態系の注目種の選定について

1. 生態系に係る環境影響評価項目の選定について

北海道知事から意見を受けた生態系への影響の調査、予測及び評価については、当初は対象事業実施区域の生態系は人工的な基盤に出現した草地等に依存しているものであり、事業の実施により一部に環境の変化が生じるものの、影響はほとんどないと考えられることから、環境影響評価の項目として選定していなかった。

しかし、対象事業実施区域は新規地点であり、その周辺には自然地形が隣接していることから、対象事業実施区域とその周辺を含めた生態系への影響を把握することが必要と考え、生態系に係る環境影響評価の項目を選定することとした。

なお、陸域生態系を選定するにあたっては、注目種の選定、調査、予測及び評価の手法について、専門家である(一財)電力中央研究所に現地を確認していただいたうえで助言を頂くとともに、経済産業省環境審査顧問会火力部会の審査資料として「補足説明資料」(別紙参照)を提出し、その妥当性について審査を受け、調査等を実施している。

2. 注目種の選定について

文献その他の資料調査(予備調査を含む)により、対象事業実施区域及びその周辺の概況を把握し、地域を特徴づける生態系の上位性及び典型性注目種を選定した。

上位性注目種としては、以下の理由によりキタキツネを選定した。

- 対象事業実施区域及びその周辺に通年生息するとともに、繁殖している可能性が高く、予備調査で複数の糞及び足跡が確認されていること。
- 食物連鎖の上位に位置する種であること。
- この地域に広く分布する草地、樹林といった多様な環境を利用していることが想定され、生態に関する知見が多いこと。

典型性注目種としては、以下の理由によりカワラヒワを選定した。

- 主に草本の種子を採餌し樹木に営巣することから、草地と樹林の双方の環境を利用する種であること。
- 対象事業実施区域及びその周辺において予備調査で多数確認されていること。
- この地域で繁殖している可能性が高く、個体の確認や生息状況の把握が可能であること。

以上